

- ☆クラシノソコアゲ応援団!2016RENGOキャンペーン
- ☆2016平和集会
- ☆オルガナイザー研修会
- ☆男女平等参画推進「トップセミナー」/女性のための全国一斉労働相談
- ☆男女平等月間/メンタルヘルス研修会
- ☆災害ボランティア救援隊員研修(中級編)
- ☆組合役員教育プログラム(実務編)/7月の行動日程
- ☆あけぼのビル

連合埼玉は、働くあなたを応援します

クラシノソコアゲ応援団! 2016RENGOキャンペーン

2015年12月よりスタートした「クラシノソコアゲ応援団! 2016RENGOキャンペーン」は本年7月までのキャンペーンの終盤にさしかかった。これまで2016春季生活闘争や第87回埼玉県中央メーデーの取り組みなどと連動し、以下の4つのキーメッセージを中心に、組合員のみならずすべての働く人、仕事を求める人を対象に、格差に苦しみ将来不安を抱えるみなさんの関心を高め、課題解決につなげる発信をおこなってきた。

<4つのキーメッセージ>

- ①「暮らし、苦しくなっていませんか？」
⇒ 暮らしの底われや格差の拡大を止めよう。
- ②「仕事、きちんと報われていますか？」
⇒ 働き甲斐のある仕事(ディーセント・ワーク)を取り戻そう。
- ③「老後や子育て、不安はありませんか？」
⇒ 安心、安全に暮らすためのセーフティネットを要求しよう。
- ④「いまの政策、働く人が主役ですか？」
⇒ 働く人が報われる政治を取り戻そう。

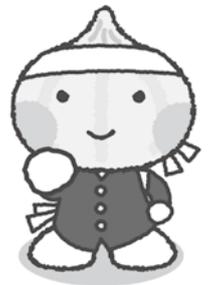
6月15日(水)、6月20日(月)の両日、本キャンペーン第3ゾーンの取り組みとして大宮駅東口・浦和駅西口において街頭宣伝行動を実施した。

各行動において冒頭、小林会長より「クラシノソコアゲ応援団!は、日常生活の中で困っている仲間を支援するためのキャンペーンである。連合埼玉として、働く仲間、生活するみなさんを取り巻くさまざまな格差を解消し、底支えをする取り組みを力強く推進していきたい」との挨拶があった。

続いて、政策制度や労働政策を担当するそれぞれの副事務局長より、「子どもの貧困」や「社会保障」の問題、「政治に参加し、投票に行く」ことの重要性、「同一労働同一賃金」や「労働時間規制」、「最低賃金」などの働く現場にまつわるさまざまな問題を提起し、街宣行動を終了した。



浦和駅駅頭にて挨拶する小林会長(右)と
司会の芳賀事務局長



連合本部が大宮駅にて街宣行動を実施

6月8日(水)、連合本部も大宮駅にて「クラシノソコアゲ応援団! 2016RENGOキャンペーン」の街宣行動をおこなった。この行動には、連合埼玉も主催者、弁士として参画した。



連合本部 街宣行動の様子

戦争の悲惨さ、平和の尊さを実感する

2016平和集会

6月4日(土)、戦争の悲惨さと平和の尊さを学び、次代に継承することを目的として、構成組織の組合員とその家族を含め60名の参加のもと平和集会を開催した。

埼玉県内の平和や戦争を扱う施設である「埼玉ピースミュージアム」「吉見百穴の地下軍需工場跡地」「原爆の図丸木美術館」をバスで回り見学をおこなった。

「埼玉ピースミュージアム」では、館内見学の後、埼玉ピースミュージアムの学芸員によるオプショナル体験ツアーをおこない、写真を見ながらその当時の状況説明や教科書でしか見たことがないような道具のレプリカに触れ学習した。

次に訪れた「吉見百穴の地下軍需工場跡地」では、東松山市観光ガイドクラブより、吉見百穴の調査結果とともに、軍需工場が作られることになった経緯や、また、どのように作られたのかを学ぶこととなった。

最後に訪れた「丸木美術館」では、原爆の図を目にし、その迫力に参加者のだれもが声を失った。美術館の学芸員からは、美術館の設立者である丸木夫妻が原爆の図を描くことに至った経緯や、絵をつうじて丸木夫妻が伝えたかったことは何なのか説明をいただいた。

参加者へのアンケートでは、「戦争が如何に悲惨なことなのか、また、家族や友人を一瞬で失うことを想

像すると、人の力はすごく怖いということも実感した」「丸木夫妻の問題意識に強く共感した。平和な未来、明るい社会をつくるために労働者として、こういった場に多くの仲間を参画させたい」「改めて戦争の恐ろしさ、悲惨さを実感し、絶対に戦争はいけない、悲しみしか生まれないと思った」「原爆の図はショックだったが、戦争の悲惨さと平和の大切さを実感出来た。これからの日本の、そして世界の平和を祈らずにはいられない」といった感想が寄せられた。

連合埼玉では、戦争の悲惨さと平和の尊さを次代へ継承するためにも、今後も継続的に戦争と平和について参加者とともに考える機会を持てるよう取り組みを続けていく。



参加者のみなさん(丸木美術館の前にて)

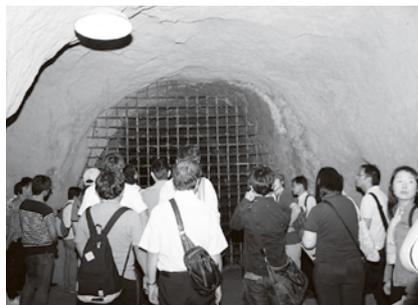


埼玉ピースミュージアム

埼玉県東松山市岩殿241-113

TEL: 0493-35-4111

<http://www.saitama-peacemuseum.jp/>



吉見百穴の地下軍需工場跡地

埼玉県比企郡吉見町大字吉見324

TEL:0493-54-4541

http://www.town.yoshimi.saitama.jp/guide_hyakuana.html



原爆の図丸木美術館

埼玉県東松山市下唐子1401

TEL:0493-22-326

<http://www.aya.or.jp/marukimsn/>

組織化に関わる人材の裾野を広げる

2016年度オルガナイザー研修会(養成講座・実践講座)

組織化の必要性を理解し、各構成組織の役職員が組織化に必要な知識を学び、オルガナイザーを目指すきっかけづくりとなるよう、5月16日(月)に座学中心の養成講座をあけぼのビルにて開催し、5月24日(火)に各構成組織の組織化対象企業等を実際に訪問する実践講座を開催した。

1日目の養成講座では、主催者を代表して組織委員長の浅見副会長より「組織化経験者も多く参加しているが、常に新たな視点や気持ちをもつことが、新たな組織化に結び付くと思う。労働組合の活動で大切なのは“理論”“実践”“なにわぶし”です。理論を学び、それを実践し、さらにその中で困っている人、弱い者を助ける気持ちが必要ではない。是非、その気持ちをもって組織化にも臨んでもらいたい」と挨拶があった。その後、連合本部より組織拡大・組織対策局の宇田川局長より挨拶を受け、連合本部中央アドバイザーの二宮誠氏より、「組織化の基本とオルガナイザーとして」をテーマに、①組織化の現実と現場での判断・対応について、②組合づくりにおける詰めの仕方について、講演を頂いた。

二宮氏からは、「労働組合をつくることとは、組織化をする中で疑問、課題、壁等になっていることを見つけ、それを解決し正常な労使関係をつくることであり、労働組合の最大の社会正義の活動である。組織拡大に携わる者として必要なのは、情熱、礼儀作法、目線、情報であるのでそれを身に付けてほしい」と冒頭に話があり、その後“下掴みからの組織化”“産業政策としての戦略的組織化”“経営側の賛同による組織



挨拶をする
浅見組織委員長



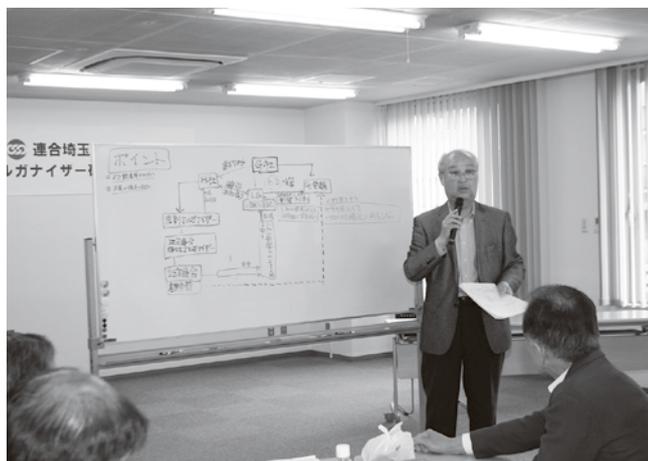
連合本部組織拡大・組織対策局
宇田川局長

化”について経験を交えながらの講演となった。午後は、滝口組織部長の進行で、「自分がオルガナイザーだったら」をテーマに、関連会社の組織化について経営者と労働者の双方からアプローチをしていく手法について討議・発表し講座を閉めた。

24日の実践講座は、1日目とは参加者が若干違うものの構成組織は一緒であることから、養成講座の最後に実践講座の説明をおこない、24日は1班3名の全5班にわかれ、朝から各地域事務所や連合埼玉などそれぞれに集合した後、産別の組織化対象企業をアドバイザーと共に訪問オルグをおこなった。

結果としては、直接の組織化につながる企業はなかったものの、好意的な対応があった企業や、連合埼玉で準備したアンケートを記入してもらえた企業等、再度オルグをおこなうきっかけができた。また、ある企業では、その日に連絡があり情報交換をしたいとの申し入れもあった。

連合埼玉として引き続き今回の班編成メンバーでオルグを継続しておこなうことを確認し、終了した。



実践的な話をする二宮中央アドバイザー



グループ討議の様子

男女がともに活躍できる社会の実現にむけて

～ 男女平等参画推進「トップセミナー」開催 ～

6月10日(金)、構成組織・加盟組合の代表者、男女平等参画推進責任者の皆さんなど28名参加のもと、男女平等参画推進「トップセミナー」を開催した。

少子高齢化による労働力人口の減少から、女性の社会・経済への進出がなければ社会の持続可能性すらあやうい状況となっている。一方で日本では、旧来からの男性中心の労働慣行(成果のためには長時間労働をいとわない、など)が解消されないことなどから、女性のみならず育児・介護など多様な事情を抱える方々が仕事と個々の生活を両立させることが難しい状況が継続している。

今回のセミナーでは、このような状況を背景に、

①「連合男女平等参画推進の全体像」

連合男女平等局 富高裕子局長

②「“女性活躍”と職場での更年期への対応」

NPO法人ちえぶら 永田京子代表

のふたつの講義をおこなった。

①「連合男女平等参画推進の全体像」では、男女平等の視点から見た現状として、企業での女性の採用や管理職登用の状況、仕事と育児・介護の両立の難しさ、男女間の賃金格差などの課題の説明ののち、本年4月より施行されている「女性活躍推進法」と来年1月改正予定の「育児・介護休業法」の要点や趣旨に沿った運用の必要性などが示された。最後に連合第4次男女平等参画推進計画の進捗と今後の推進課題を出席者全員で共有した。

②「“女性活躍”と職場での更年期への対応」では、今後、女性の社会進出が進んでいく中で、更年期の健康障害への対策が企業団体の生産性確保のためにも必要となってくることと、更年期症状の緩和のために必要な身体ケアの方法などを学んだ。

連合埼玉では、男女ともにいきいきと働ける社会を目指すとともに、労働組合での女性活躍も推進すべく今後も取り組みを継続していく。



連合男女平等局 富高裕子局長



NPO法人ちえぶら 永田京子代表

「女性のための全国一斉労働相談」を実施

連合男女平等月間の取り組みの一環として、5月19日(木)～20日(金)に全国の地方連合会において、「女性のための全国一斉労働相談」を実施した。連合埼玉では、女性委員会役員、特別執行委員が相談電話に対応し、2日間で11件の相談を受け付けた。

昨今の労働相談は、雇用契約や労働条件に関するものに並んで、職場でのハラスメントに関する相談が多くなってきている。その中で女性からは、パワハラ・マタハラ・セクハラに関する相談が多く、安心して相談できるよう女性の相談員が対応する意義も高まっている。

連合埼玉では、引き続き女性組合役員への男女平等課題に関する情報提供、コミュニケーションスキルアップの研修機会提供などをおこない、同様の取り組みを継続していく。



「雇用における男女平等に関する要請」を実施

～ 埼玉労働局雇用・環境均等室への要請行動 ～

6月15日(水)、連合埼玉会長・男女平等参画推進委員会委員長・女性委員会委員長の連名で、埼玉労働局雇用・環境均等室長に対し「雇用における男女平等に関する要請」書を提出し、意見交換をおこなった。

雇用者総数に占める女性の割合が4割を超え、働く女性がますます増える中、男女が平等に、均等な機会と待遇で、仕事と生活を調和させながら働き続けることのできる、「働くことを軸とする安心社会の実現」のためには、女性が就業を継続し、活躍できる環境を整備することが重要である。

今回の要請行動では、女性活躍推進法などを積極的に活用した環境整備の推進や働き方改革の推進、性的マイノリティへのハラスメントについてなど、多岐にわたる意見交換をおこない、埼玉労働局雇用・環境均等室と連合埼玉が連携を密にして取り組んでいくことを確認した。



要請書手交の様子

(左:埼玉労働局 布川雇用・環境均等室長/右:連合埼玉 新山女性委員会副委員長)

<要請項目(抜粋)>

- ◇女性活躍推進法に基づく行動計画を策定するにあたっては、現状把握項目に男女間の賃金格差を盛り込むことが、経年的な施策の効果検証を図る上で不可欠である旨の周知を行うこと。
- ◇あらゆるハラスメントに対して、一元的かつ積極的な対応に努めること。その際、性的マイノリティへのハラスメントについては、性的指向や性自認の基礎知識を踏まえた上で対応すること。
- ◇仕事と育児・介護が両立できる就業環境の整備に向けて、事業主・労働者に対して、改正育児・介護休業法の周知とあわせて、介護保険サービスの情報提供を行うとともに、助成金を含めた積極的な支援を実施すること。

コミュニケーションで仲間を支える

～ メンタルヘルス研修会(応用編)開催 ～

6月10日(金)、構成組織・加盟組合役員や企業の労務担当者など41名の出席を得て、メンタルヘルス研修会(応用編)を開催した。

メンタルヘルスに関して、職場にいる組合役員や、“人”に関する施策に関わる労務担当者の役割は小さくない。特に最近では、職場の仲間を支えることができる立場にいる組合役員・労務担当者には、早期発見よりも、より本質的な予防につながる「日常のコミュニケーション」の重要性が認識され始めている。

「日常のコミュニケーション」において、他者を理解し自らをコントロールすることが、職場のみなさんの過度なストレスを抑制し、メンタル不調による休職や退職を防止することにつながる。

今回の研修会では、そのような観点から、生涯学習開発財団認定マスターコーチ・アンガーマネジメントファシリテーターである、andCs代表 藤田潮氏より「コミュニケーションにより仲間を支える～アンガーマネジメント&コー

チングからのヒント～」と題する講義をいただいた。

「アンガーマネジメント」はビジネスマネジメントや子育ての領域で非常に注目されており、今回、その概要(“怒る”理由は理想と現実とのギャップであり、自分(あるいは他者)が、“あるべき”と思っていることを知ることが重要、など)を学ぶことができた。

また、コーチングの観点では、相手と自分の行動のタイプによりコミュニケーションの取り方は変わることや“聴く”こ



andCs代表 藤田潮氏

との重要性を学んだ。

この研修内容を職場でのコミュニケーションに活用し、メンタルヘルスの改善につなげていきたい。

大震災から5年、危機意識を持ち続けるために

災害ボランティア研修(中級編)

6月18日(土)鴻巣市にある埼玉県防災学習センターにおいて「災害ボランティア救援隊・隊員研修(中級編)」を開催した。東日本大震災から5年が経過し、大震災が風化しつつある中で、再び熊本県を中心とする九州地震が発生したこともあり、危機意識を持ち続けなくてはいけない、という観点から、中級編のカリキュラムとして、防災体験型の研修を取り入れた。

防災ミニシアターの会場で、主催者を代表して谷内副会長の挨拶に続き、防災についての基礎知識や災害発生時の対処法を学習するビデオを鑑賞した。その後、スタッフを含め20名の隊員にて、センターの4種類の防災体験となった。



主催者を代表し挨拶をする
谷内副会長

最初は震度7の地震体験。手すりにつかまっていなくて立ってられない程の突然の揺れで、家のたんすなど家具を固定しておく必要性を実感した。次は煙体験室となり、煙が発生する薄暗い廊下を約20メートル、低姿勢のまま壁伝いに避難する体験をした。そして風速30メートルの暴風体験では、立っているのも目を開けているのも大変な暴風を体験した。ただし、体験では前方から後方へ方向に風を送っているが、実際の台風では様々な方向から暴風が来るため、もっと厳しいとの説明があった。最後に消火器を使った初期火災消火訓練となり、激しく炎が燃える映像が映し出された大型ディスプレイに向かって消火器を使い消火を体験した。

参加者は、地震や暴風などの体験に驚きながらも、いざという時に落ち着いて行動するには、日ごろからの訓練や、危機意識を維持することが重要であると痛感した。

その後、連合本部より山根木晴久総合組織局長を講師に招き、「自然災害と連合の取り組み」と題し、東日本大震災や熊本地震でのボランティアベースキャンプの設置の仕方やその運営方法、ボランティアを



地震体験



暴風体験



連合本部
山根木晴久総合組織局長



消火体験

おこなう際のボランティアセンターとの連携などについて講義があった。

首都直下型の大地震が発生した場合、埼玉の災害ボランティア救援隊が担うであろう活動を想定し、事前に活動のイメージができたことで訓練の一環ともなる講義となった。

連合埼玉災害ボランティア救援隊では、いずれ発生するであろう関東の災害に対して、迅速に対応できるように、今後も研修を積み重ね、さらなる隊員の資質向上を図っていく。



参加した隊員のみなさん

組合役員教育プログラム(実務講座)

6月1日(水)の講座をもって、全6講座からなる2016年度組合役員教育プログラムの実務講座が終了した。本年度の実務講座の受講者は23名となり、うち2名が全講座を受講し、実務講座を修了した。

実務講座の初日にあたる5月18日(水)の講座では、組合役員教育プログラム運営委員長である大谷連合埼玉副会長からは、「得意・不得意で判断や行動をしていくことになれば、今以上の知識や資質の向上は難しく、役員としての成長も難しくなる。ぜひ、『向き、不向きより、前向きに！』行動してもらいたい」と挨拶があった。

参加者からは「組合役員と組合員の間でテンションがどうして違ってしまふのかが分かり、勉強になった」「プログラムをつうじて、様々な単組・産別の方の話の聞くことができた。今後も参加し、知識を深めたい」といった感想が寄せられた。



グループワークの様子

○スキルアップ講座が始まります！

組合役員教育プログラムとして、下記の日程でスキルアップ講座を予定しています。研修によるスキル向上だけでなく、参加者同士での産別間をこえた人材交流ともなり、多くのことを学ぶことができる機会となります。より多くの方の積極的な参加をお待ちしています。

開催日	開催時間	講座名
8/24(水)	13:00~17:00	プレゼンテーション(納得性を高める伝え方)
8/27(土)	10:00~17:00	組合広報誌の作り方
8/31(水)	13:00~17:00	組合役員のためのコミュニケーション力開発②(アサーション)
9/ 3(土)	10:00~17:00	組合役員のためのコミュニケーション力開発③(コーチング)
9/ 7(水)	13:00~17:00	イベント企画の立て方とその運営
9/10(土)	10:00~17:00	会議の進め方②(ユニオンファシリテーション)

開催場所: あけぼのビル3階会議室(受講料は無料です)

現在予定される7月の日程表です

7月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日 金		
2日 土		
3日 日		
4日 月		
5日 火	第8回四役・執行委員会(10:00~・13:00~・ときわ会館)	
6日 水		①比企地域協議会「第4回幹事会」(18:00~・中央ろうきん東松山支店) ②最低賃金審議会「第1回本審」(埼玉労働局)
7日 木		
8日 金		
9日 土		
10日 日		第24回参議院議員選挙投票
11日 月		
12日 火	埼玉シニア連合「編集委員会」(14:00~・連合埼玉会議室)	
13日 水		
14日 木	女性委員会「第7回幹事会」「役員研修会」(13:00~・連合東京/羽田クロノゲート)	退職者連合「全国組織代表者会議」(13:30~・連合3階AB会議室) 退職者連合「第20回定期総会」(9:30~・連合会館2階大会議室)
15日 金		
16日 土		
17日 日		
18日 月		
19日 火	埼玉シニア連合「編集委員会」(14:00~・連合埼玉会議室)	
20日 水	地域フォーラム(13:00~16:30・ラフレさいたま)	
21日 木		
22日 金		
23日 土	ネット21「夏休み自然体験教室in尾瀬」(13:00~ 24日)	
24日 日		
25日 月	第4回政策・制度委員会(13:30~・連合埼玉会議室)	
26日 火		
27日 水		連合「第4回地方連合会事務局長会議」(14:30~17:30・水戸京成ホテル)
28日 木	埼玉シニア連合「編集委員会」(14:00~・連合埼玉会議室)	
29日 金		
30日 土		
31日 日		①関東ブロック「第3回幹事会」(13:00~・ホテルヘリテイジ飯能) ②関東ブロック「中央ろうきん協力会議」(15:00~・ホテルヘリテイジ飯能)

Akebono Building

あけぼのビル

| 事務局長 |

佐藤 道明 |

◆参議院選挙の争点とは？

本稿を執筆しているのは、参議院選挙公示日の前日である。6月22日公示、7月10日投開票でおこなわれる参議院選挙が何を争点として選挙戦が繰り広げられるのか、選挙結果がどのようになっているのかは知る由もない。

今回の参議院選挙は争点がわかりづらい。世論調査では、社会保障や景気・雇用を参議院選挙の投票行動に重視するという有権者が多く、野党共闘の目的の1つでもある安保関連法廃止については、重視する人は少なく争点としては埋没している。

与党は民進党の政策を次々と取り入れており、与野党の違いがはっきりしない。争点をあやふやにすることで、与党はすべての政策を白紙委任しろと今回も言っているように思えてならない。それに対抗する野党が争点化すべきは、首相が消費増税について2年前の約束をほごにした政治責任と経済政策「アベノミクス」の評価ではないだろうか。

◆争点をどう考えるか？

安倍首相は6月1日の記者会見で、消費増税の再延期について「参議院選挙で国民の信を問いたい」と述べた。消費増税の延期自体は現在の国内外の厳しい経済情勢を勘案すれば、やむを得ない。しかし、安倍首相は前回総選挙の際、消費増税を再び延期することはない、増税できる経済状況に持っていくと断言した。

しかし、それを「新しい判断」と言って約束をほごにしたにもかかわらず、国民はさほど怒りを持たない。国民と約束したことを都合が悪くなればなかったことにしてしまう、今の政権の姿勢に国民は慣れてしまったのだろうか。集団的自衛権の行使容認は事実上の解釈改憲であり、政府は「新しい解釈」で押し通した。今回の「新しい判断」と構造がよく似ている。

デフレを脱却し、安定的な成長軌道に乗ることが出来るか。日本経済は正念場を迎えている。22日に公示される(公示された)参議院選挙で、各政党は経済再生に向けて、実効性のある経済

政策を有権者に示し、意義のある論戦を展開してもらいたい。

最大の争点は、安倍政権が3年半続けてきた経済政策「アベノミクス」の是非である。アベノミクスは、日本銀行による大胆な金融緩和、機動的な財政出動によって時間を稼ぎ、その間に成長戦略を実行し、潜在成長率を高めようという経済政策だ。金融緩和と財政出動によって円安と株高が実現し、一部の企業業績が大幅に回復したことは事実である。

しかし、設備投資や個人消費の活性化にはつながらず、首相のめざす「経済の好循環」は未だ着火すらしておらず、肝心の成長戦略も道半ばにある。自民党は公約に「アベノミクスのエンジンを最大限にふかすことで、デフレからの脱却速度を更に上げていく」と明記した。

アベノミクスの評価もせぬまま、アクセルの踏み方が弱いからと理由づけ、エンジンを最大限にふかすと言う論法は、例えば適切でないかもしれないが、ギャンブルに勝てないのは、つぎ込むお金が足りないからだと言って、勝てるまでお金をつぎ込むのと同じ論理ではないだろうか。

◆国民の将来不安の払拭

麻生副総理兼財務大臣は17日、北海道小樽市での講演で「90歳になって老後が心配とか、わけの分かんないこと言っている人がこないだテレビに出てた。オイいつまで生きてるつもりだよと思いつつ見ていた」と発言した。高齢者への配慮に欠ける発言として批判が出ている。

個人消費が低迷し、貯蓄が増えているのは、社会保障制度の持続可能性を含め、日本の将来への不安に起因する面がある。こうした国民の不安を払拭するには、国と地方の借金が1000兆円を超し、先進国で最悪の状況にある財政の健全化が欠かせない。消費増税を延期しながら、財政再建目標を達成するのは極めて難しいはずだ。既存の制度をどう見直し、限りある財源をどこに振り向けるのか。必要な財源をどうやって確保していくのか。選択肢を示し、合意を作っていくことこそが、まさに政治の責任である。今次参議院選挙が政党のみの論争にとどまることなく、国民を含めた論争が展開されることを強く望む。

2016.6.21